

(様式4)

富山県教育委員会教育長 殿

平成31年3月18日

富山県立石動高等学校  
校長 安田孝志

平成30年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

## 平成30年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」「学校生活」「進路支援」「特別活動」の4領域で重点項目・課題を決め、それぞれに達成目標を設けて取り組んだ。今年度は、重点項目「学校生活」「進路支援」が3年目であり、昨年度の反省・課題を踏まえて取り組んだ。他の領域の重点項目については、継続的に重点課題に取り組みながら、生徒の活動意欲が引き出せるようその内容を一部改めた。各重点課題の評価等の概要は以下の通りである。

(具体的な取組状況や評価の詳細は <別紙 様式5> に記載)

#### (1) アクティブラーニングを取り入れた「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指す

新学習指導要領に向けて主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指した。また、アクティブラーニングを取り入れた授業を積極的に実施し、教員自らが授業の再点検と改善・見直しをおこない学習習慣の定着につなげるような取り組みを実施した。

商業科では、生徒自らが目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには商業科目の基礎をしっかりと身につけた上で、自らの力を向上させていく必要がある。授業では、常に効果的な指導を模索し、工夫していくことが求められる。検定取得は、学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。

#### (2) 規範意識の向上と規則正しい学校生活の確立

スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見受けられる。そこで携帯電話やパソコンに関するアンケートを実施したが23時以降の使用しない率は40.9%と大変低い調査結果となった。結果については保護者会での面談に利用し、家庭での協力を得ながら指導する体制を整えた。

また、1年生を対象に情報モラル教室を実施し、ルール・マナーアップの向上に努めた。今後も継続して、全校集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努めるとともに生徒が主体として注意し合えるネット環境を作るなど指導の充実を図り、これからも規範意識を高めていく必要がある。

#### (3) 進路意識の向上と進路目標の早期設定

進路支援プログラムの事前・事後学習及び考査後の進路学習を充実させ、年間を通じて継続的・継続的な進路研究の場を提供し、進路意識の高揚を図った。生徒の能力や意欲を正確に把握し、進路目標の実現に向けて取り組んだ結果、取組満足度は全体としては、「ほぼ達成」できた。次年度へ向けて、進路の取り組みが進路目標の達成に生かせるよう事前、事後の指導を工夫する必要がある。また、進路達成に向けて普段の学習を基礎とし、学力向上に向けての取組を積極的に実施していく必要がある。

#### (4) 特別活動に対する主体的参加

各活動を通して全校生徒が意欲的に取り組み、集団活動や体験活動を通して豊かな学校生活を築きながら連帯意識を育むことができた。特に石高祭では、クラスでまとまった工夫が見られ様々な場面で生徒の自主的な活動を見ることができた。また、部活動では、各部の実態に応じた目標を設定し、効率的な活動を実践することができた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 生徒が生涯にわたって継続的に学び続ける基礎作りをするために教師の専門性を高め、教科指導の向上を図るためにアクティブ・ラーニングを取り入れ各教科全体の授業に対するレベルアップを目指す必要がある。商業科については、1級3種目以上の合格者が12名と目標を達成することができた。今後とも粘り強く指導を行い、上級の資格取得に向かってチャレンジしようとする意欲を持たせたい。

(2) SNSの利用に関しては、ネットの危険性を周知したり、正しい使用法を身につけさせる必要がある。

(3) 家庭学習の習慣化・基礎力の育成・実力養成に努め、進路指導体制を構築していく必要がある。

(4) 学校行事の取り組みを充実させ、生徒の視点から参画させ、より多くの生徒が主体的に関わる活動の機会を設ける必要がある。

(様式5)

平成30年度 石動高等学校アクションプラン - 1 -												
重点項目	新学習指導要領に向けた学習指導法の確立											
重点課題	アクティブラーニングを取り入れ「主体的、対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善を目指す。											
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領実施に向けて主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要である。各教科・各科目等の特質に応じた授業・指導法の改善の一助とするために互見授業週間を活用する。また、年間を通じてアクティブラーニングを取り入れた授業がなされてきたか年度末に調査を実施する。</li> <li>・商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。</li> </ul>											
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互見授業週間において各先生方が2回以上の参観をおこなう。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が、年度当初を50として1年間の工夫・改善率を数値化する。</li> </ul>	②商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>(1)簿記</td> <td>(6)珠算</td> </tr> <tr> <td>(2)ワープロ</td> <td>(7)電卓</td> </tr> <tr> <td>(3)ビジネスマナー</td> <td>(8)英語</td> </tr> <tr> <td>(4)プログラミング</td> <td>(9)会計実務</td> </tr> <tr> <td>(5)商業経済</td> <td></td> </tr> </table>	(1)簿記	(6)珠算	(2)ワープロ	(7)電卓	(3)ビジネスマナー	(8)英語	(4)プログラミング	(9)会計実務	(5)商業経済	
	(1)簿記	(6)珠算										
(2)ワープロ	(7)電卓											
(3)ビジネスマナー	(8)英語											
(4)プログラミング	(9)会計実務											
(5)商業経済												
	互見授業100% 授業改善75%以上	10人以上（卒業年度）										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の互見授業や他校の公開授業・研究協議会への参加をすることで研修を重ね、本校生徒に合った授業内容や方法を創意工夫に務めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝や放課後の補習授業を実施した。</li> <li>・3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施した。</li> <li>・教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努めた。</li> </ul>										
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月21日～6月8日の互見授業週間ではひとりあたり2.7回であった。</li> <li>・1月下旬のアンケート結果では79.4%の授業に対する工夫・改善率であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商主催検定1級3種目以上合格者12名（昨年同時期17名）</li> </ul>										
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科にこだわらず互見授業週間に多くの先生方の授業参観を促した。</li> <li>・他校の公開授業の案内やAL関係の各講演会・講習会等の案内をおこない、積極的な参加を促した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科教員の連絡を密にして個々の生徒の弱点が克服できるように資格・検定取得に向けて、各授業や朝・放課後等の補習や質問教室を実施した。</li> </ul>										
評 価	A	A										
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善については教員の自己評価だけでなく生徒からの評価や外部からの評価もあれば良いのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定の合格を目標にすることは良いことではあるが、専門学科の授業や指導は実社会で即戦力となるような人材育成をお願いしたい。</li> </ul>										
次年度へ向けての課題	他校の公開授業や研修会にて研鑽を積み、互見授業や教科部会等で授業内容や指導方法を伝達し、各教科全体の授業に対するレベルアップを目指す。	生徒は2月3日の検定まで粘り強く取り組み、1級3種目以上合格所得者が12名と目標を達成する事ができた。今年度は5種目2名4種目4名と頑張った生徒がいた。資格取得が進路に直結する意識が高まったことと、サポートする教員側の指導がうまくかみ合った成果だと思う。										

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見られる。</li> <li>・携帯電話やパソコンに関するアンケート結果より、携帯電話・スマートフォンの使用時間が23時以降していない率は、平成28年度52.7%、平成29年度51%となった。また、平日3時間以上使用している生徒は、46%となり、長時間使用が、生活のリズムを崩し、家庭学習時間の確保の妨げになっている。</li> <li>・昨年度同様に生徒が自ら学校ネットルール4箇条を決定し、働きかけたが、規範意識の低い生徒も多い状況である</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話（スマートフォン）の23時以降の使用しない率</li> <li>・<b>60%以上</b></li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話で違反した生徒には、携帯電話を預かり、保護者の協力を得ながら、違反者本人に反省を促すと共に、使用に関してのルール、マナーの意識の向上をはかる。</li> <li>・イレブンセブン運動を積極的に推進し、携帯電話やパソコンに関するアンケートを年間2回実施で実態を把握し、夜11時以降の使用を控えさせ、ネット依存にならないよう指導を行う。</li> <li>・情報モラルやセキュリティの意識の向上を図るために、授業だけでなく学習する機会を増すと同時に教職員も携帯電話に関する知識を深める機会を作り、生徒への指導を充実させる。</li> <li>・家庭でのルールの設定やスマートフォンの使用について話し合う機会を持つ等、PTA総会や各学期の保護者会等で保護者への協力を要請する。</li> <li>・生徒主体の活動を通じて、生徒自身で考え注意できる環境を作る等指導の充実を図る。</li> </ul>
達 成 度	携帯電話（スマートフォン）の23時以降の使用しない率 平日 <b>40.9%</b> （12/4 現在）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話やパソコンに関するアンケート調査を全校生徒対象に実施した。（※参考資料①）</li> <li>・ネット依存のチェックリストを全校生徒対象に実施し、結果については、1学期の保護者会で面談の際に利用した。</li> <li>・7月に1年生を対象として、外部講師による情報モラル教室の中で携帯電話のルール、マナーアップ、ネットトラブルについて指導を受け、啓発する機会を設けた。</li> <li>・生徒が自ら学校ネットルール4箇条を決定し、生徒自らネットとの関わり方について考え、意識の高揚をはかった。</li> </ul>
評 価	C
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理ができない生徒が多い状況であれば、自己啓発だけでなく、家庭でのルール作りや厳しい指導が必要ではないか。スマートフォンの利便性も十分指導しながら、保護者・地域と十分連携して、今後も指導の充実を図ってほしい。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSの利用に関して、身近な事例を提示し、ネットの危険性或正しい使用法を指導する。</li> <li>・ネット依存のチェックリストを定期的実施し、生活習慣の改善や自己管理について注意喚起する必要がある。</li> <li>・SNSの利用に関して、身近な事例を提示し、ネットの危険性或正しい使用法を指導する。</li> <li>・今後も継続して、面接や集会での注意喚起によりトラブルの未然防止に努める。</li> <li>・ネットトラブル、スマホ依存の問題では、生徒主体の活動を通じて、生徒自身で考え注意できる環境を作るなど指導の充実を図り、規範意識をより高めていきたい。</li> </ul>

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）																	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の早期設定																	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の進路選択とその実現のために本校独自の様々な進路支援プログラムを行っているが、各プログラムと自己の進路を積極的につなげようとする姿勢が足りなくなっている。</li> <li>早期に具体的な進路目標が決まらず、進路の目標実現に向けての学習意欲に結びついていない。また、受験に向けた学習への取りかかりが遅い生徒が多い。</li> </ul>																	
達成目標	① 1・2年生：進路目標設定率（2月の進路希望調査までに、以下の目標に対する取り組みの満足度と目標達成した生徒の割合）		② 3年生：希望進路達成率（11月進研模試の第1～第4志望校に進学できた生徒の割合）															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>2年</th> <th>1年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進路目標</td> <td>進学 志望学科、大学を2つ以内に決定</td> <td>進学 志望学部を2つ以内に決定</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>就職 希望業種、職種を決定</td> <td>就職 職業や企業を調べ、希望する職業が言える</td> </tr> </tbody> </table>	学年	2年	1年	進路目標	進学 志望学科、大学を2つ以内に決定	進学 志望学部を2つ以内に決定	就職	就職 希望業種、職種を決定	就職 職業や企業を調べ、希望する職業が言える	<table border="1"> <thead> <tr> <th>進 学</th> <th>就 職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>志望校への進学が実現(内定)</td> <td>就職が内定(職種の変更は問わない)</td> </tr> </tbody> </table>		進 学	就 職	志望校への進学が実現(内定)	就職が内定(職種の変更は問わない)		
学年	2年	1年																
進路目標	進学 志望学科、大学を2つ以内に決定	進学 志望学部を2つ以内に決定																
就職	就職 希望業種、職種を決定	就職 職業や企業を調べ、希望する職業が言える																
進 学	就 職																	
志望校への進学が実現(内定)	就職が内定(職種の変更は問わない)																	
	取り組み満足度が90%以上決定した(言える)生徒 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2年</th> <th>1年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学</td> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> </tr> </tbody> </table>			2年	1年	進学	90%以上	70%以上	就職	70%以上	50%以上	達成した生徒が <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>70%以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		70%以上	進学	70%以上	就職	100%
	2年	1年																
進学	90%以上	70%以上																
就職	70%以上	50%以上																
	70%以上																	
進学	70%以上																	
就職	100%																	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の進路支援プログラムの事前・事後の進路学習を充実させ、年間を通じて連続的・継続的な進路研究につなげ、進路意識の高揚を図る。</li> <li>生徒の学習内容や意欲などの実態を正確に把握することにより、進路目標の実現に向けた適切な支援を行う。</li> <li>個々の生徒の学力や志望校の出題傾向を踏まえて、集団指導（補習・進路集会・進路情報冊子の活用）や全教員による個別指導（教科添削・面接・小論文）の充実を図る。</li> <li>入試の過去問を取り入れて実力判断をしたり、過年度生の成績と進路の相関関係を照らし合わせるなどして、学習指導、進路指導を効果的に行う。</li> </ul>																	
達成度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>(%)</th> <th>2年</th> <th>1年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足度(5段階以上)</td> <td>96.8</td> <td>89.5</td> </tr> <tr> <td>学部・学科の決定</td> <td>93.2</td> <td>86.6</td> </tr> <tr> <td>大学の決定</td> <td>73.3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>業種の決定</td> <td>52.6</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	(%)	2年	1年	満足度(5段階以上)	96.8	89.5	学部・学科の決定	93.2	86.6	大学の決定	73.3	—	業種の決定	52.6	80.0	・進学： 77% ・就職： 100%	
(%)	2年	1年																
満足度(5段階以上)	96.8	89.5																
学部・学科の決定	93.2	86.6																
大学の決定	73.3	—																
業種の決定	52.6	80.0																
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間 ・進路集会(4月・9月)</li> <li>進路希望調査(4・9・2月) ・出張講義(7月)</li> <li>大学見学(2年5・11月) ・進路講話(2年12月)</li> <li>OBと語る会(2年就職希望者6月)</li> <li>「進路資料集」(1・2年) ・「進路の設計」(2年)の配布 ・PTA自前講座(11月)</li> <li>オープンキャンパス・進路情報の提供</li> </ul>																	
評 価	2年： B 1年： A	進学： A 就職： A																
学校関係者の意見	就職者に、安易に会社を辞めないよう指導してほしい。また若いうちは仕事を教えてもらった上、十分給料をもらって、会社からかなりの投資を受けていることを理解させてほしい。																	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路の取り組みが進路目標の達成にしっかり活かせるよう、事前、事後の指導を工夫する。</li> <li>卒業後の姿を見据え、やるべきことを自覚し実行できるよう支援する。特に面接のし方を工夫したり回数を増やしたりと、個々に適した指導を進めることが必要である。</li> </ul>																	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動（学校行事を通して自主的な態度の育成）
重点課題	特別活動に対する主体的参加
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事である石高祭では、クラス活動・各種委員会活動・各部活動などに対して生徒達は意欲的に取り組む姿が見られ、これらの集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築きながら自主性や連帯意識を育んでいる。</li> <li>本校部活動数は運動部13、文化部10あり、部活動加入率は運動部約62.2%、文化部約33.8%、全体で約96%と、多くの生徒が部活動に参加している。</li> </ul>
達成目標	① 学校行事（石高祭）に対する充実度が80%以上 ② 部活動に対しての充実度や結果に対する満足度が70%以上 ① 4段階評価による3以上が80%以上 ② 4段階評価による3以上が70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動を充実させ、代議員会等の適宜開催するなどして、生徒の視点から参画させることで、より多くの生徒が主体的に関われる活動の機会を設ける。</li> <li>部活動登録後、全体計画・活動内容等を部員と話し合い、個人や集団の実態に応じた目標を持たせる。</li> <li>学校行事や高体連並びに高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえ、今後の活動に検討・改善を行う。</li> </ul>
達成度	①学校行事（石高祭）の事後アンケート結果 評価3以上 合唱コンクール（87%）、展示（82%）、ステージ発表（90%） 模擬店（90%）、食堂売店（86%）、生徒会フェスティバル（84%） 総合評価（91%）、講演会（55%） 全体 83% ②部活動についてのアンケート結果（1年生、2年生、3年生、全体の順） 評価3以上 活動計画や活動内容（79.3%、83.8%、91.8%、84.8%） 活動時間や休日（73.5%、83.1%、91.8%、82.5%） 各種大会または各種発表会（46.5%、63.0%、72.1%、60.3%）
具体的な 取組状況	○石高祭 合唱コンクールの取組については、例年通りの盛り上がりを見せ、クラスでまとまって合唱できた。各展示に関してはいろいろな工夫が見られ、おもしろく楽しい展示が多かった。生徒会フェスティバルでは、ダンスや歌、抽選会とたくさんの生徒が観戦して盛り上がりを見せた。2日目にもあれば良いという意見があった。食堂・売店は長蛇の列ができるなど盛況で味も美味しいととても講評であった。講演会では小矢部の歴史のなかで「木曾義仲」に関わられた経緯や義仲の生きた時代について、また、小矢部で火牛祭りが行われている由来など新しい学びができた。また、茶道部によるお茶会は盛況で、部員たちは活動を通して充実感や存在感を味わうことができた。 ○部活動 ホッケー部においてはインターハイ女子優勝、国体男女とも準優勝、選抜男女ともベスト4と活躍した。野球部は夏の県大会ベスト4に進出した。水泳では男女各1名ずつ北信越大会に出場した。吹奏楽部は第46回富山県吹奏楽コンクールをはじめ3つのコンクール全てで金賞。新聞部は第65回富山県高等学校新聞コンクールにて優秀賞。珠算経理部は全国簿記コンクール大会並びに北信越商業実技競技会に出場した。富山県青少年美術展において美術部は彫刻部門にて佳作・入選した。また書道部は書部門にて銀賞・佳作・入選した。その他の部活動についても各種大会や各種発表会に出場・参加して活躍することができた。
評 価	B
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒達が将来、社会人となる時の為になるような体験の機会を多く設定してはどうか。商業科の生徒と普通科の生徒が連携した模擬店など、企画・運営を通して働くことについて自覚や責任感、お金の大切さ等を学ばせてほしい。</li> </ul>
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部会を定期的に行い、言語活動をより充実させて意見をまとめさせたり、考えを深めさせたりして、よりよい学校生活を築き、自主的な態度を図る。</li> <li>アンケート等を活用して意見を集約するなどして生徒の視点により参画させることで、より多くの生徒が体験的、主体的に関われる場を設ける。</li> <li>部活動については各部の実態に応じた目標の設定や効率的な活動を実践するために、顧問と生徒の話し合いを定期的に行う。</li> <li>指導者や生徒対象とする各種研修会等の情報を発信し、積極的な参加を促す。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）